

〔実践事例5〕

単元名	哲学的思考のルーティンを使って、「考えること」を楽しもう
-----	------------------------------

■ 身に付けさせたい力（指導事項）

- ・例示の効果を考え、内容の理解に役立てることができる。（読むこと イ）
- ・文章に表れている考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつことができる。（読むこと エ）

■ 教材

「哲学的思考のすすめ」 野矢茂樹 （東京書籍 中学校2年）

■ 言語活動

本単元では、学習指導要領第2学年「C読むこと」の言語活動例の「イ説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること」を参考にして、筆者の哲学的思考の方法を用いて議論するという言語活動を位置付けました。この言語活動を通して、筆者の論証を評価し、筆者の結論について自分の考えをまとめることを指導します。

授業改善策の提案

授業改善の柱1

単元を通して生徒が自律的に学習を進めることができる学習課題の設定

■単元を通して課題解決をめざす言語活動を設定し、目的や意図に応じて文章を読ませる指導



■3フレーズ（指導事項・思考操作・言語活動）の学習課題でつくる見通しのある単元構想

筆者の論の進め方を捉え、文章の内容を読み取るために、「哲学的な議論をする」という言語活動を設定しました。筆者の述べる哲学的思考の方法を用いて、「恥ずかしい」という感情についての筆者の論証を検討することが、本単元のねらいです。

中学生にとっては理解することが難しいと思われる「哲学的思考」について、生徒が「今まで学習したことがない」、また、「挑戦したい」と思わせる「筆者の論証を確かめる」という課題を設定しました。

そのために、生徒の興味・関心を喚起できるような導入の工夫を図り、哲学的な議論をするモデルを示すことで生徒に単元の見通しをもたせます。また、自分の論と自分の論を比較することで、自分の考えを深めさせます。筆者の推奨する哲学的思考を体験させ、理解を深めさせることで、考えることのおもしろさに気付かせるようにします。

《単元の学習課題》

指導事項 「筆者の論について自分の考えをもつ」

思考操作 「比較して考えを深める」

・・・[身に付けさせたい思考力 ①比較・分類]

言語活動 「哲学的な思考の方法を用いて議論する」

単元構想具体化のポイント

- ・複数教材を用いた指導…映画「小さな哲学者たち」予告編
おへそ保育園「こども哲学」
絵本「かんがえるカエルくん」

- ・条件設定を明確にした指導…ディスカッションボードを活用した議論の場の設定

「こども哲学」で用いられるディスカッションボードを意識して作成し、生徒が実際に議論するとき、自分が何について話しているのか認識できるようにします。

授業改善の柱②

生徒の思考に沿った
ワークシートの工夫

■文章を読む視点を基に
分析的に読ませる指導

↓

■思考ツールを活用した
ワークシートの工夫

思考ツールとしてクラゲチャートを用いて、筆者の論理構造を捉えさせます。「具体例」を比較、検討し、どのような「思考」によって「結論」が導き出されたのか、筆者の帰納法の考え方をつかませます。

9-11段落

哲学的思考のすすめワークシート①
10月14日 この学習をはじめて 4 時間目
本時のめあて：本文の構成を捉え、筆者の論の進め方を理解しよう。

どんな時に、人は恥ずかしいと感じるのか？

結論
劣等感につながるような失敗をしたとき

思考
・あてはまらない具体例（反例）を探す
・前の結論と比べて一般化する

具体例

授業で先生に当てられたのに答えられなかった

グループでダンスをしていて、自分だけ動きを間違えてしまった

「万里の長城」を「万里の頂上」と書いてしまった

スポーツ選手が世界記録に挑戦して失敗する

先生の出したすごく難しい問題に答えられない

2年__組 氏名_____

クラゲチャートを用いたワークシート（4 / 6 時）

単元の目標

- (1) 例示の効果を考え、内容の理解に役立てることができる。
- (2) 文章に表れている考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつことができる。

単元の学習課題

指導事項	筆者の「恥ずかしい」論について自分の考えをもち、
思考操作	筆者の哲学的な思考の方法を用いて・・・[身につけさせたい思考力 ①比較・分類]
言語活動	議論することで、考えを深めよう。

単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
① 哲学的思考に興味をもち、自ら課題を決めようとしている。 ② 思考を深めるために、積極的に他者と関わろうとしている。	① 例示を手がかりにして、筆者の提案する思考方法と、その流れを理解している。(イ) ② 筆者の哲学的思考の結果について、自分の考えをもっている。(エ)	① 思考を表す抽象的な語句の意味を、具体例を手がかりに推測し理解している。(イ(イ))

単元の授業過程（全6時間）

WS…ワークシート

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法	単元のねらいと本時の関わり
第一次	1	<p>本時の目標：哲学的に考えることに興味をもって、学習計画を作成し、学習の見通しをもとう。</p> <p>1 「こども哲学」に関する映像を視聴し、感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映画「ちいさな哲学者たち」予告編 ・おへそ保育園「こども哲学」 <p>2 教材を読み、「あたりまえに思っている身近なことを問い直してみよう」という筆者の主張を捉える。</p> <p>3 学習課題を設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・哲学という学問やものごとを深く考えることの価値について話し、学習への動機付けを行う。 	<p>〔関・意・態①〕 考えることに興味をもち、学習の見通しをもとうとしている。 【学習計画表】</p>	<p>筆者の述べる哲学的思考の方法を用いて、「恥ずかしい」という感情についての筆者の論証を検討することが、本単元のねらいです。</p> <p>そのためには、「哲学的思考」という中学生にとっては難しく感じるであろう事柄に対して、興味をもたせ学習への意欲を喚起する必要があります。</p> <p>よって、本時は未就学児が深い思考を楽しんでいる「こども哲学」を紹介することによって、哲学的思考に興味をもたせ、ゴールの言語活動である哲学的な議論のイメージを生徒にもたせるようにします。</p> <p style="text-align: center;">授業改善の柱1</p>
		<p>学習課題 筆者の『恥ずかしい』論について自分の考えをもち、筆者の哲学的な思考の方法を用いて議論することで、考えを深めよう。</p> <p>4 学習計画を立て、単元の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元で取り組む言語活動と身に付けたい言葉の力について確認を行う。 		

第二次	2	<p>本時の目標：筆者の論の進め方から、哲学的思考の方法をつかもう。</p> <p>5 絵本「かんがえるカエルくん」を読み、深く思考することの価値や面白さについて考える。</p> <p>6 単元を通して行う論理的思考力を鍛える帯学習の時間「かんガエルの時間」について説明し、論理パズルを行う。</p> <p>7 具体例をマトリックスに整理することを通して、文章全体の論の展開をつかむ。</p> <p style="text-align: center;">授業改善の柱2</p>	<p>・筆者の恥ずかしいことに対して自分の考えを付加することによって主体的に読む視点を加える。</p>	<p>〔読①〕 筆者の論証を正しく捉えている。 【WS①:マトリックス】</p>	<p>「考えることを楽しむ」ための要素として論理パズルを行います。論理パズルは、例えば帰納法など本文と結び付く考え方を提示できるものを選びます。</p> <p>ワークシートとして思考ツールの一つであるマトリックスを用いて、筆者の論の展開を整理させます。</p>
	3	<p>本時の目標：具体例を整理して、筆者の論の展開を理解しよう。</p> <p>8 筆者の述べる「哲学的思考」を部分に分けて捉える。</p> <p>①クラゲチャートの使い方を、7、8段落を用いてモデル学習する。</p> <p>②9-11段落グループと12-14段落グループに分かれて、それぞれのまとまりをクラゲチャートに整理する。</p> <p>③2つのグループがそれぞれにまとめたものを交流し、前半部分をまとめる。</p> <p style="text-align: center;">授業改善の柱2</p>	<p>・単元のゴールが討議であることを再確認し、議論の内容を深めるツールとして哲学的思考法を用いることを意識させる。</p> <p>・具体から抽象化する帰納法の考え方が理解できるように、具体と抽象の例を教科書以外からも用いてモデル学習を行う。</p>	<p>〔読①〕 哲学的思考を段階的に捉え、その構造を理解している。 【WS②:クラゲチャート】</p> <p>〔言〕 「一般化」や「反例」等の語句を用いて会話している。 【観察】</p>	<p>思考ツールとしてクラゲチャートを用いて、筆者がいくつかの具体例を比較、検討することで「恥ずかしい」の本質に迫ろうとする帰納法の考え方を繰り返し用いていることに気付かせ、本論の展開の特徴をつかませます。</p>

第 二 次	4 ・ 5	本時の目標：みんなの具体例を筆者の論に重ねて、恥ずかしさの正体に迫ろう。		〔読①〕 筆者の思考法を用いて、話を進めている。 【WS③：XYチャート】 〔関・意・態②〕 付箋に要旨を書き込み、積極的に発言している。 【観察】	本時は後半部のクラゲチャートを自力で完成させ、筆者が哲学的思考の帰納法により一般例を導き、それに対して反例を挙げ思考を深めていることをつかませます。 生徒の出した具体例を、縦軸を劣等感、横軸を共感としてXYチャートにプロットし、筆者が定義する「恥ずかしい」と生徒自身とのずれを認識させます。 筆者の「恥ずかしさ」とのずれに注目して議論を深めさせるためにディスカッションボードを用います。
		④前半部分のまとめ方を用いて、後半部分をまとめる。(クラゲチャート) 9 筆者の哲学的思考の方法を整理する。 10 「恥ずかしい」の具体例をXYチャートで整理することで筆者の論理を再確認する。 <div style="text-align: center; background-color: #90EE90; border-radius: 10px; padding: 2px 10px; display: inline-block;">授業改善の柱2</div>			
		11 「恥ずかしい」という感情について、グループで「哲学する中学生の会」を開き、ディスカッションボードを用いて議論する。	・ディスカッションボードを用いて、思考を可視化する。(ディスカッションボードは、生徒が整理した哲学的思考法を基に作成する。)		
		12 議論した内容を、ディスカッションボードを手掛かりにして、メモにまとめる。	・話合いの状況に応じて、議論を活性化したり、深めたりできるような情報を提示する。		

第 三 次	6	<p>本時の目標：単元を振り返り、この単元で身についた言葉の力を確認しよう。</p>	<p>・具体例を付け加えた活動も振り返りながら、筆者の思考法について考えさせる。</p>	<p>〔読②〕 筆者の思考法について検討し、評価している。 【WS④：まとめ原稿】</p>	<p>筆者がここまで進めてきた恥ずかしいという感情についての思考を前時の議論を基にして評価し、文章にまとめさせます。</p> <p>また、単元の最後に、この学習を通して身についた言葉の力を振り返らせ、学習計画表の評価の欄に記入させます。</p>
		<p>13 メモをもとにして、「恥ずかしい」という感情についての哲学的思考をまとめる。</p> <p>14 単元全体を振り返り、この単元で身についた言葉の力についてまとめる。</p>			

授業の実際

ワークシートから見る本単元の展開

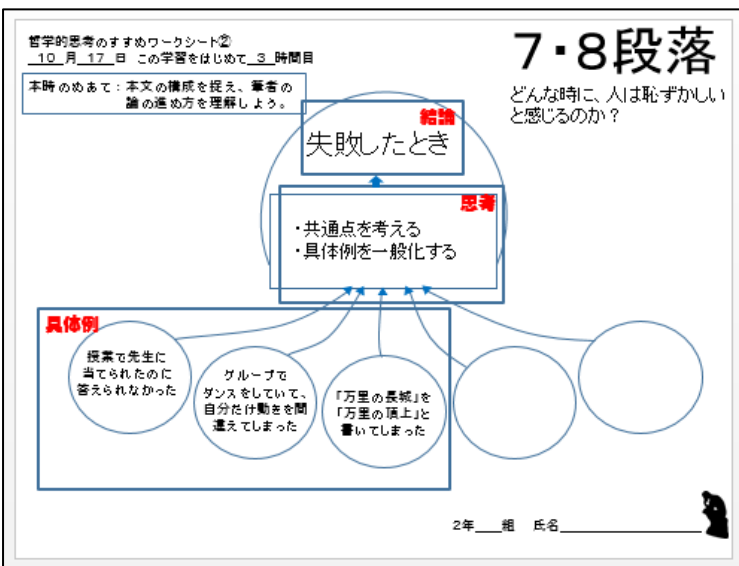
【ワークシート①：マトリックス】（2／6時）

	失敗して恥ずかしい	失敗しても恥ずかしくない	失敗しなくても恥ずかしい
どんなとき	授業で質問に答えられない	ダンスで自分だけ間違え	万里の長城を万里の頂上
失敗したとき		スポーツの世界記録に挑戦	先生の強腕に挑戦
劣等感を持ったとき		家で勉強している	友達に負けた
人が見ていたとき			お腹がグーと痛った
共感を得られない（と感じる）とき			1人で取っていたつもりが
【上から】どんなときに人は、恥ずかしいのか？			母から買ってもらった服
自分だったら恥ずかしいか？			電車の中で化粧をする

※1 「どんなとき」の項目にはあてはまるものに○、そうでなければ×、場合によっては△を記入する。
 ※2 「自分だったら」の部分には、とても恥ずかしい○、恥ずかしい△、恥ずかしくない×で記入する。

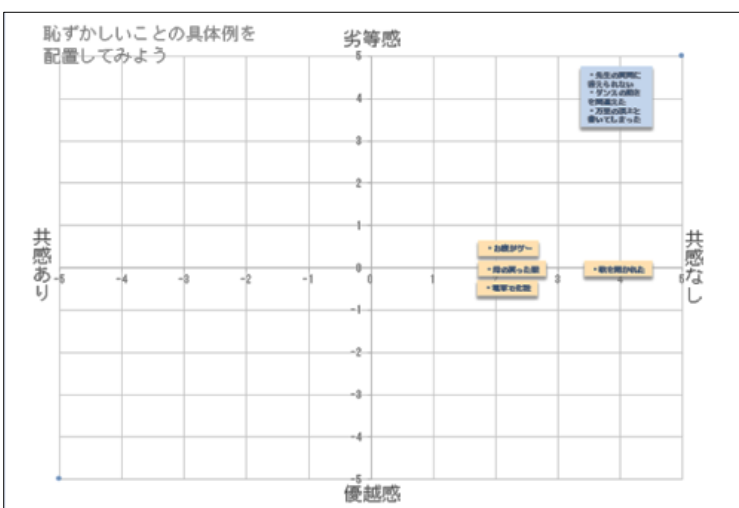
ワークシート①では、まず、具体例をマトリックスに整理することを通して、文章全体の論の展開をつかませます。
 次に、整理したことを基に、筆者の考えをまとめさせます。
 最後に、自分の体験と関連付け、自分の考えをもたせることにつなげます。

【ワークシート②：クラゲチャート】（3／6時）



ワークシート②では、クラゲチャートを用いて、筆者の思考法を捉えさせます。複数の「具体例」を挙げて、それらに共通する思考法と筆者の結論をまとめさせます。
 また、同様のワークシートを繰り返し用いることで、論証の細部を「具体例」に注目して読み進めることをねらいとしています。

【ワークシート③：XYチャート】（4／6時）



ワークシート③は、縦軸を「劣等感－優越感」、横軸を「共感あり－共感なし」としたXYチャートです。
 生徒が出した具体例と筆者が挙げている具体例をXYチャート上に配置し、筆者が定義する「恥ずかしい」と生徒自身とのずれを認識させることをねらいとしています。

検証授業を振り返って

授業改善の柱1

■単元を通して課題解決をめざす言語活動を設定し、目的や意図に応じて文章を読ませる指導

生徒にとって身近ではない「哲学的思考」という話題について、興味・関心をもたせるために幼稚園児が哲学的な話題について議論している「子ども哲学」の様子を映像で見せるという導入を行いました。この導入から「哲学的な議論をする」という言語活動を設定しました。

課題の解決については、生徒が「筆者の述べている恥ずかしいが、自分にとって恥ずかしいと感じられない」と初読の感想を発言したことから話を広げて、「筆者の論証を確かめる」という課題を設定しました。

テキストに書かれていることをそのまま受け入れるのではなく、自分たちで検証するという学習活動について、生徒は意欲的に取り組み、目的をもって学習を進めることができました。

■3フレーズ（指導事項・思考操作・言語活動）の学習課題でつくる見通しのある単元構想

このような経緯を踏まえて、「筆者の『恥ずかしい』論について自分の考えをもち、筆者の哲学的な思考の方法を用いて議論することで、考えを深めよう」という学習課題を設定しました。これは、筆者の論と自分の論を比較するという思考を伴う言語操作によって、自分の考えをもつことを意図しています。配慮したのは、筆者の論を批判するのではなく、筆者の論を確かめるという学習活動であるということの生徒への周知です。

生徒は、どのように考えを進めればよいのか最初は迷っていましたが、筆者の考えが明らかになってくると自分の考える「恥ずかしさ」、あるいは、その体験との比較を通して、自分の考えをより明確にすることができました。

授業改善の柱2

■文章を読む視点を基に分析的に読ませる指導

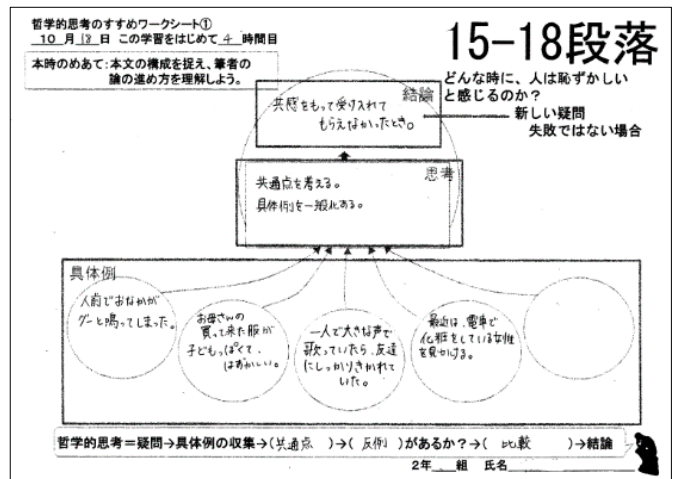
筆者の思考は、基本的には具体例を一般化していく帰納法の考え方であるということをつえさせるために、まずは具体例を抜き出させ、それが「恥ずかしい」ということにどのように結び付いているのかを考えさせました。

■思考ツールを活用したワークシートの工夫

上記のような分析的な読みを進める過程においてクラゲチャートを活用しました。クラゲの足の部分に筆者が述べている具体例を書かせ、クラゲの胴体の部分には、その具体例から導かれた一般化された思考を記述させました。最初は戸惑いを見せた生徒も、筆者の思考の展開に合わせて、クラゲチャートを繰り返し書いていくことで、筆者が帰納的なものの考え方をしていることを理解することができました。

他にもどんな時に「恥ずかしい」と筆者は述べているのかを整理し、自分の感覚と比較させるためのマトリックスや「恥ずかしい」の具体例を劣等感と共感という視点から整理させるXYチャートも用いました。

これらのシートは生徒の思考力を育むという観点では、一度だけ使用して効果のあるものではなく、クラゲチャートによって生徒が帰納法という考え方を理解し、使えるようになっていった経緯を考えると、年間計画に位置付けて繰り返し用いることが大切だと考えます。



資料1 クラゲチャートを活用して筆者の思考法をつえさせたワークシート

評価による学習の振り返り

《振り返りシートによる自己評価》

最終的に、自分がこの単元で身に付けたと思う言葉の力を自己評価として記入させました。「哲学的思考を用いてより深く考える方法が分かった」「反例を用いて自分の考えをまとめていく方法が分かった」「一般化するという考え方が分かった」というような自分の考えをもつ手立てが分かったというような記述が、62%の生徒の文章に見られました。

《生徒の記述に基づく評価》

生徒に筆者の哲学的思考について、どのように考えるか文章記述させたものを分析しました。その結果、一般化できる要素をもつ具体例を2つ以上挙げた上で、「恥ずかしさ」について筆者の考えと自分の考えを比較できているものが、全体の68.2%となり7割近くの生徒が本単元の目標を達成できました。

感 じ ら れ る こ と も あ る と 私 は 考 え る	れ て い て も 、 自 分 自 身 の 失 敗 が 恥 ず か し い と	い た バ が 恥 ず か し い な ど と 思 い 配 し て く	こ れ ら の こ と か ら 、 恥 ず か し さ と は 、 見 て	も あ っ た	ど い た よ う で 友 達 に 心 配 さ れ た こ と い う こ と	で 考 え 言 を し て い た ら 、 そ う と う 怖 い 顔 を し	心 配 さ れ た こ と い う こ と が あ る 。 ま た こ の 人	き 、 カ ー ド レ ッ ル に ぶ っ か り そ の 歩 行 者 か ら	例 え ば 、 自 転 車 に 乗 っ て 歩 行 者 を よ け た と	ら だ 。	ら 共 感 が あ っ て も 、 恥 ず か し い と き が あ る か	私 は 、 そ の 論 は 不 十 分 だ と 考 え る 。 な ぜ な	べ て い る 。	き 起 こ す と 具 体 例 を 哲 学 的 に 考 え た 末 に 述	る と き に 、 そ れ が 恥 ず か し い と い う 感 情 を 引	ら 共 感 を も つ て 受 け 入 れ ら れ て い な い と 感 じ	筆 者 は 、 人 が 見 て い る と こ ろ で 、 一 周 圍 か	私 の 「 恥 ず か し い 」 論	二 年 組
--	--	--	---	------------------	--	--	--	--	---	-------------	--	---	-----------------------	---	--	--	---	--	-------------

資料2 筆者の論証を検討し、評価した生徒の記述

